



## 水木しげるロードと 三十四年前の手形

東日本建設業保証株式会社  
建設産業図書館

江口知秀  
Tomohide Eguchi

松 江を後にして、私が小学校五年生から六年生の時を過ごした鳥取県の境港へと向かう。横浜の祖父母に預けられていた私が、親子三人で初めて暮したかけがえない日々だった。

小学校卒業と同時に、横浜へ戻ることになったが、家の裏手に面していた建物が、張り出した露台のコンクリートを打ち直していたので、去り際に手形を押しした。今思えばとんでもない話だが、ここに住んだ証を残したかったのだと思う。いたずらには厳しかった両親もこの時ばかりは見逃してくれた。建物裏で人が通る場所ではないし、子ども心を察してくれたのだろうか。

そうして境港を思い出すことも稀になったころ、仕事で再訪した父が、私の手形がまだ残っていると教えてくれた。三十年近く経っていたのでずいぶん驚いたが、それからさらに数年が経ち、ようやく三十四年前の自分の手形を見に行く機会を得た。

さて、米子駅に停車中の目玉おやじがラッピングされた電車を見て、いきなり憂鬱になる。境港駅の駅前から八〇〇メートルほどの商店街が、平成五年から「水木しげるロード」として再整備されたことは知っていたが、人ごみは嫌いなのに駅前の道だから避けられない。

果たして三十四年ぶりの境港駅は一新されており、駅前から鬼太郎ワールドが広がっていた。駅舎はもちろん、駅前から歩道が整備され、ところどころに妖怪のブロンズ像が建っている。この像が目玉なのだそう。実際、同行者は大喜びしている。

来訪者数は開設当初年間三〇万人だったが、鬼太郎のアニメや映画、またNHKの「ゲゲゲの女房」の強烈な追い風を受け、平成二十二年にはなんと年間三七二万人を記録したという。ちょっと信じがたい。しかし、その後は減少に転じ、近年は二〇〇万人を割り込むことが懸念されている。まあ、それでも凄いなと思う。境港市も頭打ちをなんとかしようと歩道の拡幅や、ブロンズ像の追加・再配置の検討を進めているらしいが、鬼太郎の人気と盛衰を共にすることは間違いない。

そして「水木しげるロード」を一步外れると、子どもの頃と寸分たがわぬ街並みがあった。当時通った小学校も、下校時に立ち寄ったスポーツ用品店も、鯖寿司を買いに走ったスーパースポーツ用品店も、まだ。ただし、当然建物は傷んでいるし、人通りはなく、店のシャッターは閉まっている。「水木しげるロード」以外の境港の町は、静かに衰えつつあるように見える。

しかし、だからこそ手形は残ったのだろう。草や葛に覆われて探すのに苦労したが、室外機のすぐ横にようやく見つけた。今とほとんど大きさが変わらず、この頃から成長していないことがわかる。それにしても、よく塗りつぶさずに残してくださった。室外機も手形を避けて付けてくれたのではないかとさえ思える。なにせ、初めての土地で不安だった私を、屈託無く歓迎してくれた人々が住む町なのだ。



水木しげるロード

[交通] JR境線境港駅前から約800mの区間が水木しげるロードとして整備されている。